

令和8年度

第 1 回 木 更 津 市 史 編 集 委 員 会

日 時 令和8年7月22日（水）午後2時から
場 所 木更津市役所 朝日庁舎 会議室2-4

1. 開 会

2. 教育長あいさつ

3. 職員紹介

4. 委員長あいさつ

5. 協議事項

議題1 刊行計画の変更について

議題2 令和8年度木更津市史編さん部会活動計画について

6. 報告事項

報告 「木更津市史 史料編8 近現代1」の刊行について

「木更津市史」の原稿として提出される著作物の利用に
関する覚書」の送付について

木更津市史編さん作業室の移転および電子機器の追加
設置について

7. 閉会

年度		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
『木更津市史』編さん・刊行（資料調査・研究含む）	市史研究																			
	公開講座記録集																			
	木更津市史編さんだより																			
	史料編1 考古1																			
	史料編2 考古2																			
	史料編3 考古3																			
	史料編4 古代																			
	史料編5 中世																			
	史料編6 近世1																			
	史料編7 近世2																			
	史料編8 近現代1																			
	史料編9 近現代2																			
史料編10 民俗																				
自然編 資料																				
別冊史料編建築・仏像																				
通史編1 原始																				
通史編2 古代																				
通史編3 中世																				
通史編4 近世																				
通史編5 近現代																				
自然編 総論																				
別冊 目録・索引1～4 (通史・史料編)																				
民俗・芸能デジタルコンテンツ作成																				
Web版作成・公開																				
刊行物数										2	1	1	2	3	3	2	1			

令和8年度木更津市史編さん部会活動計画

資料2

部会名	考古部会	部会長名	加藤 修司
令和8年度活動計画	① 史料編2考古2(古墳時代)、史料編3考古3(奈良・平安時代・中近世・石造物)について事務局により6月に入札説明会、考古部会長も参加、その後に入札。 ② 資料所有者等に対する掲載許可申請を事務局に依頼。 ③ 古墳時代原稿について、一部の執筆者が未提出のため今後の対応について執筆者本人と協議を行う。 ④ 古代史部会の通史編について、考古部会との一部内容調整協議。 ⑤ 印刷業者が決定後、校正を経て令和8年度中に刊行予定。		
現在までの実施内容・進捗状況	① 古墳時代の一部執筆者を除き、原稿は完成している。 ② 各執筆者との原稿校正・修正作業をしながらフルデジタル編集を継続しており、7月末をめどに印刷業者に提出できるデジタルデータを完成予定		
これまでの取組での課題点・懸案事項	資料所有者等に対する掲載許可申請の事務処理が困難な状況が一部にあり、事務局と協力しながら進めたい。		
今後の調査予定・刊行見込み	史料編2考古2(古墳時代)、史料編3考古3(奈良・平安時代・中近世・石造物)について令和8年度刊行予定		

部会名	古代部会	部会長名	吉井 哲
令和8年度活動計画	「通史編」執筆の準備作業を実施する。 具体的には、①史料編に掲載した史料を丁寧に読み直し、古代の房総、特に木更津市とその周辺地域の特色について考察する。 次に、②既刊の『千葉県歴史』(県史)、『袖ヶ浦市史』以降の房総古代史研究の動向を調査し、成果と課題を整理する。 さらに、①②をふまえて、「通史編」の目次案の作成を行う。 その際、考古・中世の近接部会との協議を行い、執筆分担の検討を行う。 また、外部への依頼を含めて、具体的な執筆分担案を作成して、検討・依頼を行う。 実際の執筆に際しては、「古代房総のなかの木更津市とその周辺地域」、「日本のなかの木更津市とその周辺地域」、「世界のなかの木更津市とその周辺地域」といった視点を重視したい。 加えて、議論の分かれる事については、コラム等で独自の見解も提示するなど、単なる概説にならないような工夫も図っていく。 以上をふまえて、後半には、見本原稿の検討も実施したい。		
現在までの 実施内容・進捗状況	部会員により、上記①②を実施し、これをふまえて、部会内での目次案の検討を行い、考古・中世部会に提示し、検討を依頼している。		
これまでの取組での 課題点・懸案事項	執筆分担の決定に際し、考古・中世部会との円滑な調整の実現に向けて努力する。 部会員以外の執筆者をいかに確保していくかが課題である。		
今後の調査予定・ 刊行見込み	木更津市とその周辺地域の史跡踏査 1～2 回程度実施する		

部会名	中世部会	部会長名	滝川 恒昭
令和8年度活動計画	令和10年度の史料集刊行に向けて具体的な活動を実施する体制はできている。そのため分担の再確認とこれまでの進捗状況の確認のための定期的な部会が必要となる。そこで今年度第1回目の部会を4月に ZOOM で実施し、さらに第2回目を8月6日に実施することがきまっている。今後さらには年内に定期的に実施し、来年度の原稿提出に備えることで準備をすすめている。 次に本年度には、昨年に引きつづき市内真如寺および富津市三柱神社、鋸南町妙本寺の調査(写真撮影)、君津市・市原市・袖ヶ浦市等の近隣市町村における最終的な確認調査が必要になる。特に妙本寺の調査には、すでに10月に実施される虫干しの際に調査を実施することで、先方とも調整ができており、その際は写真撮影を中心に作業を進めたい。 また今年度発見された大阪の笹川家文書(未発表)については、先方の許可が必要だが、すでに基礎的なデータは獲得しており、史料集に載せる方向で話をすすめている。 またすでに活字化されている史料についても、写真および原本で校訂作業を行ったのちにデータ化する作業が必要である。そのために、史料の写真入手が早急の課題であり、収録予定史料の目録化をすすめるとともに、それぞれの写真有無を確認し、写真が無いものについては、重点的に収集作業をすすめる必要がある。 これらを本年度から来年度初頭までに終え、再来年度の史料集刊行に結び付けたい。		
現在までの 実施内容・進捗状況	妙本寺文書 資料選定終了 写真撮影 笹川家文書 資料調査終了・選定調査 その他県内外の資料 継続調査が必要 活字資料 ほぼ検索終了 その他については各自の分担領域を責任をもってすすめている状況である。		

これまでの取組での 課 題 点 ・ 懸 案 事 項	昨年度課題とした真如寺の古文書調査が必要と思われる。また三柱神社の調査も喫緊の課題である。 上総武田氏関係の史料については、担当がほぼ決まっているので、その意見を今後部会で確認したい。 古代部会から投げかけられた時代の区切り。
今後の調査予定・ 刊 行 見 込 み	妙本寺文書調査 笹川家文書 袖ヶ浦市立博物館葛田家文書 その他県内外各地

部会名	近世部会	部会長名	小関 悠一郎
令和8年度活動計画	○史料調査 重田家文書の整理：目録の未完部分について作成作業を完了させ、編集に必要な史料の撮影を実施する。令和 7 年度に続き、史料調査に関する活動のうち、最も重点的に取り組む作業とする。 - 重田家文書以外については、市史の執筆担当箇所ごとに個々の委員の判断で必要な史料調査を実施する。 ○部会打合せ - 史料編執筆・編集に必要な事項の検討、進捗状況報告を主として、部会打合せを開催する。 - 上記の他、史料調査や編集に関する連絡を密にし、必要に応じて随時打合せを開催する。 ○史料翻刻 - 予算額に応じて、翻刻作業者に翻刻を依頼する史料の精選作業を実施する。 - 市史の執筆担当箇所ごとに個々の委員による翻刻作業を継続的に行う。		
現 在 ま で の 実施内容・進捗状況	○史料調査 令和7年度から現在までに、近世部会では下記の通り史料調査を実施した。 - 重田家文書：木更津市郷土博物館金のすずへの移管・燻蒸を経て、目録作成を行ったが、未完部分が残っている。また、編集作業に必要な史料の撮影を開始し、一部を部会で共有した。本史料群は、市史編さんの上で最重要の史料であるため、早急に作業を進める必要がある。 - 以上の他、千葉県文書館等において、個々の委員が調査を行った。また、下烏田の諏訪氏より資料提供をうけた。 ○部会打合せ - オンラインにて、2 回の打合せを実施した。 - 打合せにあたって、翻刻・掲載史料の選定を行った。 - 協議により、章立て・執筆分担を確定させた。 ○史料翻刻 - 業者による翻刻データを受け取り、編集を進めた。 - 次年度、翻刻作業者に依頼する史料の選定を行った。		

これまでの取組での 課題点・懸案事項	- 重田家文書について、目録が作成途上で、写真撮影も一部の史料にとどまった。同文書は、市史編さんの上で最重要とも言える史料であることから、調査研究に可能な限り時間をかけて、調査の成果を市史に十分に反映させることが強く望まれる。 - デジタルコンテンツの作成について、部会としては可能な範囲で積極的に活用していきたいと考えているが、作成方針がまだ明確ではないため、十分に対応できるか懸念もある。 - 刊行までの行程を円滑に進めるとともに、潜在的なものも含めて市民の期待・需要に応えうる市史を作成していきたい。事務的な部分について文化課と一段の連携の下に取り組んできたい。
今後の調査予定・ 刊行見込み	- 重田家文書について、「課題点・懸案事項」で述べた通り、市史編さんの最重要史料として、できる限り調査研究を進めた上で、史料編にその成果を盛り込みたい。 - 上記に関して、<u>史料編近世1の原稿執筆を進め、予定通りの刊行に向けて注力したい。</u>

部会名	近現代部会	部会長名	不在
令和8年度活動計画	近現代史料編1の刊行をうけて史料編2に向けての構成を考え、担当者を決め、史料選定に入る。 選定した史料の筆耕		
現 在 ま で の 実施内容・進捗状況	近現代史料編1の刊行をした		
これまでの取組での 課題点・懸案事項	・印刷会社とのやり取りにおいて至急の場合でも担当者が不在だと連絡の取りようがない。担当者は複数の事案を抱えており忙しく、できれば歴史に興味のある専属の市史担当者が欲しい。この問題はかなり以前から指摘しているが、今後の刊行予定を鑑みても早急の課題である。 ・池田部会長の死去によりここ数ヶ月は動ける3人で何とか対処してきたが、今後の活動計画を考えると大幅な人数増加を望みたい		
今後の調査予定・ 刊行見込み	千葉県で唯一の芸者の見番所である木更津会館の建物調査と聞き取り。県文書館での木更津関係記事の検索と撮影。		

部会名	自然部会	部会長名	山田 真
令和8年度活動計画	「自然編 資料」の正誤表の作成 「自然編 総論」の原稿の下書きを2026年12月までに完了させる 担当者によっては補足の現地調査を予定している。 「自然編 総論」の目次案の作成・完了		
現在までの 実施内容・進捗状況	環境、地学の分野については概ね下書きを執筆完了している。 植物分野については千葉県立中央博物館の査読を含め概ね完了している。 菌類については執筆中である。 動物分野についても鳥類の一部を除き、概ね執筆完了している。		
これまでの取組での 課題点・懸案事項	執筆者の不足のため取り扱うことができなかった生物群があり残念である。		
今後の調査予定・ 刊行見込み	現地調査については各自が必要に応じて行う。 2028(令和10)年3月の発刊に向けて活動している。		

部会名	民俗部会	部会長名	玉井 ゆかり
令和8年度活動計画	市内全域に調査地域を拡大して、現地踏査及び聞き取り調査を継続する。調査の円滑化、推進を図るために事務局と連携を密にして地元の情報をすくい上げ、速やかな対応と調査に入れるように努める。毎月部会会議を開催し、委員間の日程調整や進捗の確認を行うとともに調査内容の共有もはかる。また、民俗に関連する資・史料についても他部会と情報共有しながら調査を継続する。 これらをふまえて年度末に調査の集積状況をまとめ、民俗報告書の刊行に向けて概要を検討する。		
現在までの実施内容・進捗状況	令和 7 年度からは調査地域を「海岸部」「内陸部」と限定せずに、事務局が把握した地域からの協力情報を優先して、聞き取り・現地踏査を実施してきた。また、実際に現地で調査する際にも、各委員の分担項目をクロスオーバーさせるようにして、限られた機会のなかでの効率的な調査を進めてきた。 一度でも調査に入った地域では、そこで得た知遇を糸口に話者との縁をつないでいき、いくつかの地域で協力的な広がりを作ることが出来てきている。また、市内から収集されている資史料について、民俗学的見地からの確認や整理作業にも取り組み、資史料の有効活用を目指している。		
これまでの取組での課題点・懸案事項	刊行に向けて調査の積み重ねが必要であり、現在進行形で実施しているところであるが、項目によってはまだ蓄積が進んでいない分野もあるのが課題といえる。特に年中行事や祭礼などのように時宜を得ないと調査が難しいものもあるため、一層の情報確保が必要である。		
今後の調査予定・刊行見込み	毎月2か所程度調査を継続するとともに文書調査を進める。調査に入った地区についても必要な場合は補足調査や継続調査を行う。今後、進捗状況を見据えながら、刊行に向けて全体的なバランスを調整していきたいと考える。その際、資史料を本編に掲載する方向も検討したい。		

部会名	デジタル作業部会	部会長名	不在
令和8年度活動計画	令和7年度に引き続き、木更津市史デジタルアーカイブの内容とデジタル関連の諸問題への対応の検討を行う。		
現 在 ま で の 実施内容・進捗状況	1. デジタルコンテンツがターゲットとする対象者について ①研究者②一般人③小学校高学年から大学生まで(教育現場) 2. デジタルコンテンツの市史における意義について ・地域の生態の状況を他地域に周知できる。学名や分布も周知できる。 ・現在の状況を未来に残すことができる。 3. 掲載したい内容について ・考古部会:縄文、弥生、古墳、奈良平安の各時代から少しずつ掲載したい。3D で回転させるなど、デジタルアーカイブの特性を活かしたい。 ・中世部会:寺社の古文書を掲載したいが、権利の関係で難しいか?テキストをデジタルでというのは意味あるか ・近世部会:検地帳をすでに掲載しているのでどうしようか検討中。部会内では市史本編の掲載の希望がでている。 ・近現代部会:現在史料編刊行に向けて集中しているのでデジタルコンテンツまで考えがいたっていないが、掲載したい資料候補はあるので、気にしてはいる。 ・自然部会:資料編を掲載しているので、デジタルコンテンツとしてはどうするか? ・民俗部会:祭礼、行事、芸能などが考えられる。また、民具の3D もよいかも。 4. 掲載したい機能について ・オフラインでも見られる ・改ざん不可、印刷可、複数ページまとめてダウンロード可 ・音声読み上げ機能 5. デジタル作業部会に推薦したい人材について ・対象を学生にするのを視野に入れて、学校の先生はどうか。 ・県内でデジタルコンテンツに取り組んでいるところに打診 ・市史編さん委員でデジタルコンテンツに関心のある委員 6. 各部会での大容量データの送付方法とデータの保管方法について		

	(考古)Google クラウドでデータ保管、部会委員同士の共有は Web ではしていない。郵送または手渡しで USB でしている (古代)テキストなので重くないためメールでやり取り、データ保管はハードディスク (自然)ドロップボックスはやめて、USB でやり取り、データ保存についてはどうするか検討中。Smoothfile は流出が心配だが、事務局にデータ保管してもらうことも考えている。 (近世)ドロップボックスで保管とやり取り ※市史編さんで収集された大量の資料データを今後どうしていくのかが問題になってきている。収集した資料は所有者のものであり、資料データについて編さん委員と事務局の立ち位置の整理が必要 7. 市史本編の付属物として動画や写真を公開する場合の方法について (考古)DVDは読み取り機器がパソコンについていないし、容量も少ないため、もう使えないと考えている。容量から考えてデジタルアーカイブに搭載するのがよいか…。 (自然)QRでデジタルアーカイブに飛べるような仕様にできないか？その場合パワーポイントや動画は搭載可能か
これまでの取組での課題点・懸案事項	デジタルアーカイブの今後の方向性や内容の詳細が決まっていないことが課題。また、新たなコンテンツが加わらないためアクセス数が伸び悩んでいる。
今後の調査予定・刊行見込み	11月に各部会でのデジタル化やそれに伴う問題点について聞き取りを行い、デジタルコンテンツ作成に向けて検討する。